

審議会等議事概要

平成29年度 第2回滝川市いじめ防止専門委員会 議事概要

日時	平成30年3月16日(金) 15:30~16:30
開催場所	滝川市役所 7階 701会議室
出席者	会長：富家直明委員 委員：中川桂子委員、濱出幸雄委員、豊田収委員 事務局：山崎教育長、田中部長、栗井指導参事、諏佐課長、寺嶋課長補佐、堤主査
議事	<p>1 開 会 進行：諏佐課長</p> <p>2 会長挨拶 富家直明会長より挨拶</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 報告</p> <p>i 「平成29年度絆づくり成果交流会」実施報告書について i について、堤主査より報告</p> <p>質疑応答等</p> <p>①委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・校区単位で取り組みを行うことで自然と小中学校間の連携も深まり、いじめ防止に向けてさまざまな情報交換がなされることが予想され、とても効果があるものと感じている。 <p>ii いじめアンケート調査(2回目)の結果概要について ii について、堤主査より報告</p> <p>質疑応答等</p> <p>①委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・高校のアンケート結果において、無視や悪口等で嫌な思いをしたことがあると答えた生徒が1人もいないというのは不自然な感じを受けるのだが。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none">・高校については年2回のアンケートに加えて学校独自のアンケートも年1回行っているが、例年同様の数値が出ているのが実状である。ただ、昨年度、一昨年度は高校からの通報相談があり、いじめ認知に至ったケースもあるため、数値が安易に「嫌な思いをしたことがある生徒が1人もいない」につながるとは考えておらず、また、常に起こり得るものだという認識で見定めて

いるところである。

②委員)

- ・「いじめはどんな理由があっても許されないとはいいますか」という質問に、今でも1割強の児童生徒が「よくわからない」と答えている。少しずつ減ってはいるが、次の課題となり得ると思われ、注視したところである。

③委員)

- ・アンケートの文言が「いじめられている」から「嫌な思いをしている」に変わったということで、「嫌な思い」という言葉に反応し、数値が増えるのは理解できる。それに伴って「どんなことをされたか」の数値も増え、それらを精査した結果、すべていじめには当たらないという報告であったが、文言の変更により数値が増えたことを踏まえた上で、叩かれる、悪口を言われる等をどのように捉えているのかを伺う。

事務局)

- ・精査の結果、内容の詳細として、コミュニケーションスキルの未熟さが原因で乱暴な物言いをしたり、手が出てしまったりというような事例が各学校で共通して見られた。また、授業中に後ろの席の児童の足が椅子に当たって「嫌な思いをした」と答えた等、些細なことも含まれている。コミュニケーションスキルといった、個人のパーソナリティに関わる訴えに対しては理解を促し、いじめではないという結論に至ったところである。

④委員)

- ・アンケートの「嫌な思いをした時に誰に相談するか」という問いに、誰にも相談しないと答えている児童生徒が一定数おり、特に小学校1、2年生は前回のアンケートに比べて増加が顕著である。困った時に誰かに相談することは援助要請行動といい、非常に重要な行動であることから、この数値をゼロに近づけていきたい。

(2) 協議

i いじめに関する通報・相談状況について

ii いじめ認知状況について

i、ii について、堤主査より説明

質疑応答等

①委員)

- ・通報相談を受けた際に、非常に迅速でスムーズかつ柔軟な対応ができていると感じた。

②委員)

- ・部活動における通報相談が2件あるが、それぞれどのくらいの継続期間があって通報相談に至ったのかを伺う。

事務局)

- ・11月に通報相談のあったものは春頃から、12月に通報相談のあったものは

1 か月ほど前からの継続であるが、12月の事案については他の生徒たちも被害を受けており、生徒によって継続期間に違いが見られた。

- ・学校生活に部活動が浸透している中学校に比べ、小学校は部活動における事案の早期発見、早期対応、迅速な報告というものが、学級経営と同列でイメージしにくい側面があるのではないかと感じたところである。このことから、部活動の生徒指導の在り方について、学校生活における生徒指導と差があつてはならないことを再確認したところである。

委員)

- ・12月の通報相談については、迷惑行為を行った生徒のコミュニケーション能力が未熟なことに起因するとの報告であったが、その特性はおそらく小学生の頃から継続されているものであることを考えると、通報相談に至るまでの継続期間の中で何かしらの対応はできなかったのか等を検証していくとよいと感じた。

③委員)

- ・最近では、我が子のことを自分のことのように思う保護者が増え、それが保護者同士のわだかまりとなり問題を難しくしてしまうということがしばしば見受けられるが、そういった点はどうか。

事務局)

- ・問題解決のために当事者同士が関わる場を設けようとしたが、保護者から同意を得られない事例があつた。

委員)

- ・担任や部活顧問の先生が保護者の話を十分に聞く時間を取るのが難しく、それが保護者にとっては進展が見られないと感じて不満に思うこともあるかと思う。

委員)

- ・我が子だけしか見えない保護者が多く、我が子が思うようにいかない先生批判につながってしまう。これからの先生は悩みが多くなるのではないか。

④委員)

- ・昨年の春まで低学年の児童と接する機会があつたが、集団生活の中で発生するぶつかり合いを、いじめまたはいじめではないと判断するのは非常に難しいと感じた。

⑤委員)

- ・いじめの解決に向けては、同時に先生のストレスや負担感にも配慮が必要である。保護者同士のトラブルというようなことになると、現場の先生だけでの解決は難しいと考える。昨今、「チーム学校」という言葉が使われ始めているが、いろいろな立場の第三者からアドバイスをもらえるような体制を作り、学校や先生をサポートできるようにしていかなければならないのではないかと感じた。

iiiについて、堤主査より説明

質疑応答等

①委員)

- ・この資料の活用としてはどのように考えているかを伺う。

事務局)

- ・例えば自分の学級で通報相談を受けた時にはどうしたらよいのか、また、重大事態が起こった時の各組織の動き等、教員の研修資料としての活用を願っている。また、こういった取り組みをすることが大切だということや、他市町村にも参考にしてほしいという思いから、ホームページに掲載したところである。

②委員)

- ・対人関係の問題で性別違和を訴える生徒が出始めている。そのことから、多様性についての知識や理解の必要性を感じていると同時に、それがいじめの未然防止にもつながると考えている。

③委員)

- ・アトピーなどの疾患に関しても、先のご意見と同様のことを思うところである。

4 教育長挨拶

- ・滝川市のいじめへの取り組みについて、委員の方から貴重なご意見、示唆をいただき感謝申し上げますとともに、ブラッシュアップしながらより実効性ある活動として高めていきたい。また、いじめについてはやはり未然防止ということを中心に、北海道いじめ防止基本方針も参酌しながら進めていく所存である。

5 連絡事項

特になし

6 閉会

会議資料

会議次第